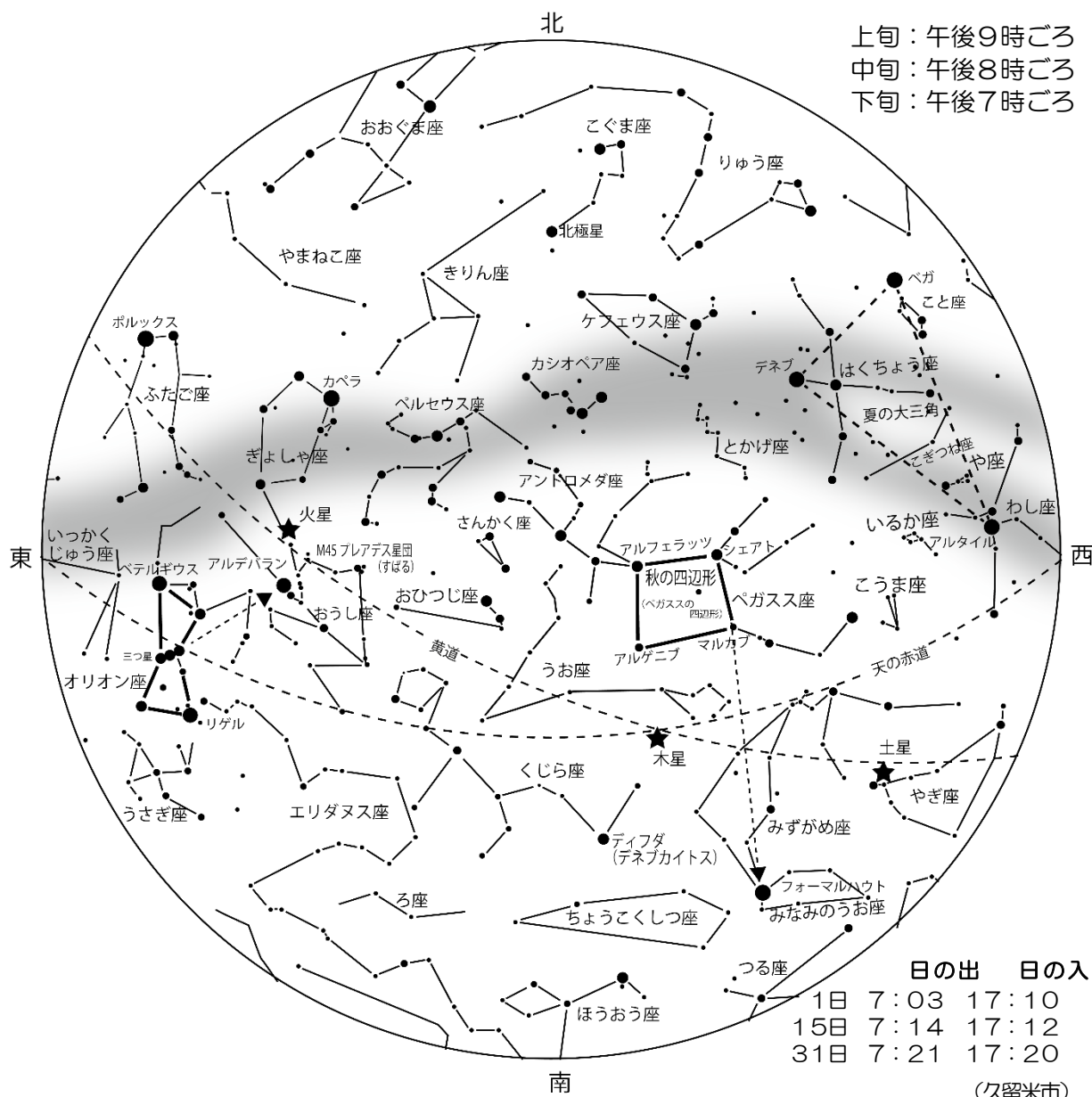


# 令和4年 12月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



上旬：午後9時ごろ  
中旬：午後8時ごろ  
下旬：午後7時ごろ

## ★12月の星空案内

今月は西から南の空では秋の星座、東の空では冬の星座を見ることができます。秋の星座探しの目印となるのは、南西の空で輝く同じくらいの明るさの星4つでつくる四角い星の並び『秋（ペガスス）の四辺形』です。この『秋の四辺形』はペガスス座の一部です。この『秋の四辺形』のシエートとマルカブを結んだ線を地平線の方へのぼしていくと、秋の空で唯一の1等星フォーマルハウトが見つかります。ここには**みなみのうお座**があります。

冬の星座探しは、等間隔に並んだ3つの星『三ツ星』とそれを取り囲む4つの星でつくる砂時計のような星の並びを目印に見つけることができる星座**オリオン座**からはじめましょう。その砂時計の星の並びの左上で赤っぽく輝く星が1等星の**ベテルギウス**です。そしてオリオン座の三ツ星を結んだ線を北西の方（地平線とは逆の方向）にのぼしていくと、オレンジ色に輝く1等星**アルデバラン**が見つかります。ここには**おうし座**があります。さらに今年アルデバランの近くに**火星**が赤っぽく輝いています。-1.7等の火星は1等星のアルデバランと比べても一際明るく輝いています。火星、ベテルギウス、アルデバランの暖色系の星が3つ輝く様子は見応えがあります。見頃を終える秋の星座と見え始めた冬の星座、そして3つの暖色系の星を12月の星空で巡ってみてはいかがでしょうか。

### 【見ごろの惑星】（☆マークは、今月のおすすめです。）

☆水星(-0.5等前後)：へびつかい→いて座付近	観測に適さない。
☆金星(-3.9等前後)：へびつかい→いて座付近	日の入り後、南西の低空でひととき明るく輝く。
☆火星(-1.7等前後)：おうし座付近	21時頃、南東の空で明るく輝く。
☆木星(-2.5等前後)：やぎ→みずがめ座付近	19時頃、南の低空で明るく輝く。
☆土星(0.8等前後)：うお座付近	19時頃、南西の空で輝く。

### 注目の天文現象(12月) ～見ごろを迎えた火星を観察しよう！～

夜空で赤っぽく輝く火星は、地球の1つ外側を公転している惑星です。この火星が約2年2ヶ月ぶりに地球と接近し観察の好機を迎えます。今回の火星の最接近は12月1日午前11時頃で、火星と地球との距離は約8145万キロメートルになります。この時の火星の見かけの大きさは前回の最接近の時と比べ7割程度になります。望遠鏡などで観察しない限り見かけの大きさは分かりませんが、肉眼で観察しても最接近した明るい火星を楽しむことができるでしょう。また、最接近時は昼間のため火星を見ることはできないので、日本では11月30日(水)の深夜過ぎか12月1日(木)の宵の頃に火星を見ると良いでしょう。このころの火星は-1.9等と一際明るく輝いて見えますので比較的に見つけやすいです。

そして、火星は12月8日(木)に「衝」を迎えます。衝の頃は、太陽が沈むころに東北東の空から昇り、太陽が昇るころに西北西の空に沈むため、一晩中観察をすることができます。12月は火星を見ることができる時間帯が比較的に長いため、赤っぽく輝く火星を楽しむチャンスになります。ぜひ、この機会に火星を観察してみてください。

日	日の出	日の入
1日	7:03	17:10
15日	7:14	17:12
31日	7:21	17:20

(久留米市)

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
8	木	○ 満月 (13:36)	22	木	冬至 (6:48)
14	水	ふたご座流星群が極大 (条件：良)	23	金	● 新月 (19:17)
16	金	● 下弦 (17:56)	30	金	● 上弦 (10:21)